



大分県立竹田高等学校
関東同窓会
第44号

発行者・会長 松良修二
編集者・委員長 田部修士
発行所・関東同窓会事務局
〒245-0016
横浜市泉区和泉町4354-2
電話 045-803-5677

<http://www.gocities.jp/kantohaketai/>

大分県立竹田高等学校

関東同窓会 第26回総会・懇親会

とき 平成24年6月16日(土)

ところ 東京プリンスホテル

当番幹事 前田 ささみ代 (昭58年卒)

平成二四年六月一六日は、私達にとって忘れることのできない日。遷都を迎えた昭和四六年卒と、五十路に差し掛かった五六年卒の当番幹事が一丸となり、一年の準備期間を経て迎えた第二六回竹田高校関東同窓会。人生の節目にふさわしい記念日となりました。

青梅雨に潤う緑、背景には東京タワー。東京プリンスホテルが、総勢二四二名を迎えてくれました。関東一円の皆様に加え、竹田をはじめ大分県下各方面、関西からもご参加いただきました。四六年卒は一〇名、五六年卒は八名が、週末を利用して上京

下さいました。

井手得郎幹事長による総会開会宣言。物故者を悼み一同黙祷。校歌斉唱。松良修二関東同窓会長のご挨拶に続き、会計監査報告。

四名のご来賓から素晴らしいお話をいただきました。藤原崇能竹田高校校長は、今年四月に着任、間もなくして、新体育館が完成し、スポーツ・文化活動のスペースが拡充、母校の文武両道の精神は健在です。沼活動では、山岳、弓道、陸上、アーチェリーが、九州大会やインターハイ出場と大健闘。

後藤真二同窓会長は高校と同

窓会の橋渡しにご尽力され、在校生向けに「ようこそ先輩」と題する特別授業を企画。各方面で活躍する先輩を講師として招き、生徒と触れ合うという興味深いもの。生徒たちの視野を広げ、スキルアップにもつながります。

「文化と歴史の力は大きい」と熱く語って下さったのは首藤勝次竹田市長。「サンチャゴの鐘」プロジェクトが進んでいます。江戸時代に長崎から岡藩に伝わったが、その鐘の音を聞いた者は誰一人いません。今年の岡藩城下町四〇〇年祭を機に、岡指定重要文化財の銅鐘を鳴らし、さらには、精密な複製品を鋳造する一大企画に踏み切りました。その鐘の音が会場で公開され、「キリシタンの鐘は澄みきって乾いた音。世界に向けて、竹田と鐘の音を発信していきたい」と。

四七年卒の橋本祐輔豊後大野市長は、ジオパーク(大地の公

園)構想の壮大なお話です。豊後大野市一帯は、約九万年前の阿蘇山爆発による火砕流で形成された地域。堆積した火砕流を加工した石仏や石橋なども多く見られます。日本の滝百選「原尻の滝」を始め、一四にも及ぶ「日本百選」は市の誇りです。

さて、「民家の甲子園」をご存知でしょうか。全国高校生を対象とする写真コンテストで、被写体は民家や町並みに限定され、今年第一〇回目を迎えます。竹田高校民族部は、第七回民家大賞、第八回京極賞、第九回街かど賞、と三年連続受賞。民族部所属の現役高校生三名と顧問の先生が会場に駆けつけ、作品を披露してくれました。明治、昭和、平成。時代は変わっても、昔のままの変わらぬたたずまい。若むす城址、商店の軒先、神社やお寺。

その一方で少しずつ変化する自然、人々の生活。失いたくない風景、変わりたくない心。高校生が捉えた描写です。込み上げてくるものでスクリーンが霞み、会場全体が穏やかな優しさに包まれました。

二六年卒長吉泉様の乾杯の音頭で、会場が一気に和みの場となりました。数十年ぶりの再会に手を取り合う紳士。変わらぬ面影を見つけては微笑む淑女。二六年卒濱口鈴子様ご寄贈の冷

酒「千羽鶴」を美味しくいただきました。竹田の焼酎「清明」、団子汁に舌鼓を打ちながら、会話も弾む至福の宴です。

今年は、昭和二三年卒の布施泰義様を筆頭に、最年少は平成二四年卒。卒年幅にして六四年。まさに、三世代に亘る集いです。現役大学生五名が登場。自己紹介、突撃インタビューに、会場が沸きました。平成一八年卒志賀俊紀さん、二一年卒平井麻衣子さん、二二年卒志賀幸哉さん、そして、二四年卒の佐藤明子さんと普美都樹さんです。

いよいよ、テイクアウトの登場です。お揃いのTシャツはマリンブルー。背中には「気力・闘志・根性」の文字が刻まれています。五三年卒の音楽好きが高校在学中に結成、文化祭で名を轟かせたグループです。リーダーの和田啓さんは大分、志賀哲哉さんは久住、そして、高山裕昭さんは津久見市保戸島から参加して頂きました。由目(メインボーカル、敬称略)をご紹介します。

- ・ ささやかなこの人生(和田)
- ・ 二二歳の別れ(志賀)
- ・ 僕の胸でおやすみ(高山)
- ・ 加茂の流れに(和田)
- ・ ひとりきり(志賀)
- ・ 妹(高山)

リーダーのトークも軽やか。最後の一曲、時代、思いを重ねて聴いてください。「神田川」(志賀)です。場内の熱気と声援、割れんばかりの拍手。アンコールに込めて歌ってくれたのは、名曲「なごり雪」。

懇親会も閉幕を迎え、来年度の当番幹事にバトンが渡されます。四七年卒六名と五七年卒四名がステージに集結、固い握手が交わされました。締めは恒例のストーム。今年是一段と輪が大きく、力強く感じました。五五年卒茂里剛様ご寄贈のしいたけ茶に、竹田銘菓とカボスドリンクの、心ばかりのお土産が用意されました。会場を後にする方々の笑顔と後ろ姿を見送る役員ならびに当番幹事。安堵と深い感慨で輝いていました。

卒業と同時に故郷を離れ、夢に向かって上京したあの春。幾度とつまずき、道に迷いそうにもなりました。ひと息ついたところで、同じ学び舎を巣立った皆様にお会いできたことをとても嬉しく思います。来年初夏、関東同窓会が咲かせる大輪の花を楽しみにしています。



首藤竹田市長 ご挨拶



松良会長 ご挨拶

フォトで綴る!! 第26回総会懇親会風景



恒例のストーム

プログラム

(懇親会の部)

12:20-14:30

- 乾杯
- 会食・歓談
- アトラクション
- 当番幹事引継ぎ
- 「校歌」斉唱
- 閉会のことば

会計報告

収支計算報告書

(平成23年4月1日より平成24年3月31日まで)

1. 収入			
①	維持会費	1,609,000円	
②	総会費	1,640,000円	
③	総会祝儀	130,000円	
④	募入金	8,000円	
⑤	受取利息	250円	
	計	3,387,250円	
	前期繰越	2,442,571円	
	合計	5,829,830円	
2. 支出			
①	総会費	1,913,468円	
②	会報費	823,349円	
③	会費	281,334円	
④	名簿費	14,296円	
⑤	ホームページ費	6,300円	
⑥	当番幹事助成金	50,000円	
⑦	慶弔費	22,154円	
⑧	事務通信費	223,856円	
⑨	寄付金	10,000円	
	計	3,344,757円	
	次期繰越	2,485,073円	
	合計	5,829,830円	
3. 次期繰越の内訳			
①	現金	96,593円	
②	預金	2,388,480円	
	計	2,485,073円	

上記のとおり報告します。

平成24年4月10日

幹事長 井子 得郎 印

監査報告書

監査の結果、この収支計算報告書は、適正かつ正確であることを認めます。

平成24年5月17日

監事 坂本 勇 印

監事 後藤 猛士 印



テイクアウトの熱演



現役高校生の参加

校長 藤原 崇能先生より



関東同窓会の皆様には、平素より母校の教育の振興につきまして、特段のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

本年4月より、本校HPは、原則毎日更新しております。懐かしい母校の今、後輩の今を是非ご覧いただきたいと思っております。大変ご心配をいただきました未曾有の災害、北部九州豪雨ですが、本校生徒は、自宅が土砂崩れや床上・床下浸水の被害に遭う者、線路の損壊により代替バスでの登下校を余儀なくされた者がいますが、負傷者はなく、この点につきましてはご安心いただきたいと思います。

厳しい状況の中、生徒はそれぞれ自宅の片付けを手伝ったり、地域住民の方と協力して道路脇に散乱したゴミやがれきを

撤去したりするなど自分たちができることに取り組みました。

母校竹田高校は明治30年、日清・日露戦争のはざま、国立国会図書館、京都帝国大学設立の年にあたり、本年、創立115年の伝統校であります。開校以来、3世紀にわたり彫刻家朝倉文夫氏、日本パーカライジング創立者里見雄二氏等々数々の偉人を世に輩出してきました。

生徒は、偉大な先輩に続くこと「自律自尊、進取研鑽、和衷協同」の校訓を我がものとすべく、教室では、等しく先人の英



お帰りなさい! 里見財団の方々コーラス部と共に 5月18日



竹田高校寄席 柳亭市場師匠 6月5日

知の獲得に目を輝かせ学習に取り組んでいます。

放課後は、生徒会活動、文化芸術活動、体育活動等に勤しみ文武不岐を体現しているところ。本年度、山岳部男女・弓道部女子・アーチェリー、書道吟詠・将棋・民俗部が全国大会、九州大会出場を果たしました。地域清掃奉仕活動やお祭りなどの地域行事にも積極的に参加しています。

5月には竹田文化会館にて、「広瀬武夫を忍ぶコンサート」が開かれ、器楽部も自衛隊西部方面音楽隊とのジョイントコンサートを行い、ハイコロリティ・サウンドとのコラボレーションが実現しました。6月には新体育館の落成記念

行事「竹田寄席」本校同窓生、四代目柳亭市馬師匠をお迎えし、柳亭市也、紙切の林家菜市、ジャグリングのストリート松浦など多彩な内容で、特に市馬師匠の芸は、会場に詰めかけた観客を魅了していました。

公益財団法人里見奨学会による奨学金や学林会奨学金、修学旅行における企業訪問研修等、心温まるご支援、常日頃から感謝いたしておるところですが、今年も同窓会派遣事業により8名の生徒が参加して7月29日から3泊5日のシンガポール研修が行なわれました。

異文化理解や語学スキルアップ等を目的に、様々なプログラムが実施され、多民族国家であるシンガポールでの経験は、生



同窓会派遣事業シンガポール語学研修 7月30日

徒の世界観や視野を広げる大変貴重な経験となりました。ありがとうございました。

本校には古くは江戸時代までさかのぼりますが、前身の旧制竹田中学及び竹田高等女学校の流れをくむ輝かしい伝統があります。引き継がれてきた伝統、歌、校訓の精神を大切に、輩各位のお気持ちをしっかりと受け止め、時代を拓く人材の育成に今後とも全力を挙げて取り組んでまいります。

誠に残念ながら、本校を取り巻く厳しい状況は、厳然たる事実をお伝えし、ご協力とお願いをしなければなりません。

人口約120万人弱の大分県は、市町村合併により現在14市3町1村の自治体数となっております。

特に中学校卒業予定者数は大変厳しいものとなっております。本校の存続、維持、発展に向け、何よりも、本校受験希望者の確保が喫緊の最大の課題です。是非とも本校受験生の確保につきましまして、ご親戚、知人の方々へのおすすすめ等のお力添えを切にお願い申し上げます。

終わりになりますが、関東同窓会のみならずの発展と皆様の御健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

燃える!!

クラス会・同期会

震災を乗り越えて

安藤 哲(昭26卒)

平成二十三年十一月十八日、昭和二十六年卒同期生二十七名が「新宿クルーズ・クルーズ」に集合し、卒後六十五年目の関東二六会を開催いたしました。

三月十一日の東日本大震災、その後の余震停電交通混乱等で一時は開催が危ぶまれた時期もありましたが、関係者一同の熱意な御支援の御陰で、約半年遅れになりましたが無事実現することが出来ました。

開会に当り物故者への黙とうの後、会長阿南正氏の挨拶と乾杯の音頭が始まり、大分より参加された二六会事務局長・永嶺勝司氏の挨拶、志生野アナウンサーの軽妙な司会で全員が近状報告、自由懇談、カラオケと



和気あいあいの中に生きて集えることの喜びを確かめ合う一時を過ごすことが出来ました。

次期幹事を後藤光夫、吉良欣一、稲生茂子の諸氏にお願ひし最後に「荒城の月」を合唱して閉会しました。

尚、二六会は来る四月六日久住高原荘に於いて祝会寿全国大会を予定して居ります。

竹高26会全国大会
傘寿記念同窓会

浜口 鈴子(昭26卒)

昭和二十六年三期生は、四月六日、七日に傘寿記念同窓会を久住高原荘でもった。現地集合組六十五名、書面等の参加の約八十名を得て盛大に開催することができた。

晴天の青、桜花のピンク、高原の新芽のみどり美しい色合いを演出し、八十歳の「いぶし銀」を久住の大地にふりまきながら、絆を深めることができた。

阿南正会長のあいさつに続いての懇親会は、丸テーブルを囲んで談笑。祝詞、祝舞、祝吟など、会場は一気にヒートアップ。全員歌唱の「荒城の月」「竹高高校校歌」へと進み、竹高卒業生としての誇りを感じた。

別室では、「歴史回顧展」が催され、六十年に及ぶ各地方の二六会の集いの写真、恩師の書簡、会員の趣味の数々の展示にも人気が集まった。

二次会では、戦中戦後の歌のオンパレード、肩を組み合い高校時代の賞しい日々ではあったが、社会の中に「進取の気風」もあつた遠い世に思いを馳せた。

翌日、大半の会員はバスで母校を訪ね、新装なった体育館を見学、我々が寄贈した「世界主要都市時刻表示ボード」が校長室の壁面に掲げられ、時刻を点灯している姿に感動した。

裏山の久保公園には戦時中空襲警報とともに身を隠した防空壕もわずかにその跡を残していた。唯一、当時の建造物として残る柔道場の前では、この母校の遺産をしっかりと胸の中に取めた。

続いて岡城——同級生の思い出の中で餅を抜いて印象に残っている——に登城。当日は満開の桜を愛でる最高の場であつた。

本丸跡にたずねれば、春の霞にけふる阿蘇、久住の遠景、更に振り向けば祖母、頼の連山。久しぶりに「浩然の気」に浸った。



久住の山に師に以て心がひかれると歌った明治の文人のように、岡城がわが母校の背後から見守っているかのような一種のぬくもりを感じ、いつも我々にエールを送り続けているように感じた。ありがとう母校、そして岡城よ。

高齢者の集まりに体調が気遣われたが、幸い全員無事に同窓会を終えることができた。

特別寄稿1

「春は春は」の作者は竹田出身だった

ボートの権化 御手洗 文雄

安東 和彦 (昭25年卒)

「春は春は 桜咲く向島(ヤッコラセー ヤッコラセー) 花が散る(アウー アウー)」

ボート(漕艇)をやったことのある人なら、この元気のいい歌を知らない人はいないであろう。大学のボート部の集まりなどでは必ず歌われ、それで盛り上げて気勢を上げるのである。「冬は冬は 名にし負う坂東太郎 オール持つ手に雪が積む雪が積む」

この歌を作詩作曲した御手洗文雄は、明治40年から大正3年にかけて一高(現在の東京大学教養学部)から医科大学(現在の東大医学部)のボート部で活躍し、「ボートの権化」とまで呼ばれた。元東京都知事の東龍太郎も同じクルーで先輩文雄の指導を受け、その人柄に深く魅せられ大きな感化を受けたという。この歌もその合宿訓練中に生まれたものである。

「春は春は」の作者は竹田出身だった。安東和彦(昭25年卒)の内科に勤務する。ところが大正5年に東京でコレラが大流行し、病院に運び込まれた行き倒れの死者を病因解明のため病理解剖担当の文雄が執刀解剖、死因はコレラであることがすぐ判明する。しかし不運なことに万全の注意にも拘らず文雄はその解剖中に感染して発病し、その2日後に29歳の若さで急逝したのである。当時はまだコレラに対する有効な対処法は無かったのだ。死後、枕の下から遺書と辞世の句が発見された。「秋浅く 染めかねて散る 楓かな 文雄」

君 多年の高誼を謝す。幸いに健在を祈る。」と結んであった。追悼式は東大の講堂で盛大に行われた。会葬者は400余名に達し、この若い有無の士の逝去を悼んだという。国家国民のために職に殉じたその壮烈な最後は、廣瀬中佐や佐久間艇長、更には野口英世の最後をいみじくも連想させる。



君 多年の高誼を謝す。幸いに健在を祈る。」と結んであった。追悼式は東大の講堂で盛大に行われた。会葬者は400余名に達し、この若い有無の士の逝去を悼んだという。国家国民のために職に殉じたその壮烈な最後は、廣瀬中佐や佐久間艇長、更には野口英世の最後をいみじくも連想させる。

実父の唯一は通信官吏で転勤が多く、全国各地の郵便局を転々とする生涯を送っている。二男の文雄も明治21年四国の高松で生まれ、小学校までは大分、岐阜、四日市、名古屋と度々転校した。中学は竹田に帰って竹田中学に入学する。(卒業は青森中学)

文雄は幼い時から最優秀で通して来た。中学でも抜群の成績で特待生であったという。同級生の大津留穂は、五高(現在の熊本大学)から東大の法学部に進み、卒業後は満鉄に入社、後に理事にもなった人で、文雄とは別頭の交わりを結び、東京でもよく行き来した竹馬の友であった。

文雄が竹田中学の3年生の頃、佐伯の御手洗家に養子入りの話が進められ、卒業後、御手洗家に入るようになった。養父の良徳は医科大学に学び、卒業後は一時北里三郎博士の下で研究生活までした人だが、家業を継ぐために佐伯に帰り明治25年頃から医院全己黨を開き開業医となった。当時はま

だ大学で本格的に修行した医師は田舎では稀であり、随分重宝がられたという。文雄はすぐ一高に合格、上京して養父と同じ道を進むのである。文雄はその逞しい外観に似ず、非常に繊細な心の持ち主で、律儀で義理を重んじ自分の事より周囲の事を優先するという性格であった。将来は国家社会のために役立つ人間になる事を目標とし、理想の人間像として廣瀬武夫をこよなく崇拜した。

明治37年5月1日、竹田中学の校庭で廣瀬中佐の追悼会が行われた。文雄は中学生として参列し、その盛儀に感動、すっかり廣瀬の偉大さに魅せられてしまった。生家が実家の近くという親近感からも、その打ち込み様は人一倍であり、東京でも僅かの時間を割いては青山墓地にある廣瀬武夫の墓に度々詣でていたという。

竹田はおよそボートには縁のない土地柄だと思えるが、その竹田から日本のボート界の神様とも云うべき快男児、そして医師としてもコレラという難病死病と闘い、天職に殉じて多くの人が出たという事は郷土の誇りとして深く心に留め、永く誇り継いで行きたいと思う。

特別寄稿2

岡藩勤皇家・初代堺県知事 平成二十五年 生涯二百年を迎える郷土の偉人

「岡藩士道の精粹」 小河彌右衛門一敏の生涯について

小河一敏は、今から二百年程前の、文化十年一月二十一日(西暦一八一三年二月二十一日)に生れ、岡藩の士道を代表する優れた見識と胆力を持つ人物で、竹田の人々は、この人物に対し敬愛を込めて「一敏(いちびん)さん」と呼んでいました。

故郷・竹田の近代史を語る時、その筆頭に語るべき人物に、幕末の勤皇家で維新後に初代堺県知事を務めた小河一敏がいます。

小河一敏は、今から二百年程前の、文化十年一月二十一日(西暦一八一三年二月二十一日)に生れ、岡藩の士道を代表する優れた見識と胆力を持つ人物で、竹田の人々は、この人物に対し敬愛を込めて「一敏(いちびん)さん」と呼んでいました。

小河家は、鎮守府將軍の藤原利仁を祖とし、その子孫が被官の小河谷に住み小河姓を名乗ったもので、戦国時代の後裔、初代・小河古之は始め朝倉義景に仕え、滅亡後、越前を出て羽柴秀長に仕えます。更に豊臣滅亡後、二代目・小河安良は福島正則に仕えますが、幕府から広島城の無断改修で改易され、三代目・小河一時は、明暦年間に岡藩三代目の藩主・中川久清侯に迎えられる。以後、小河家は禄高五百石で岡藩に仕える事となります。

小河一敏は、父親が病弱で早世、文化六年、十一歳の時に祖父より小河家の九代目を継ぎ「小河彌右衛門一敏(おごうやえもんかずとし)」と名乗ります。

幼少より群童に抜さん出た秀才で、始め藩儒・野清清格就き、後に角田九華の門で朱子学を修め、

あらゆる学問に精通、更に陽明学を究めて知行合一の旨を得ます。

後年、朝廷や西郷、木口、副島等の維新の英傑と呼ばれる多くの人物と交わり得たのも、この和漢の高い教養のお蔭でした。

特に陽明学は熊澤番山を招請して竹田に伝えられたもので、小河家の武士道にとって欠かせぬ思想で、小河一敏は生涯この知行合一を貫きます。

二十四歳の時、その秀でた才能を総奉行役・榊井藩次郎に見出され藩内の衆望を担って要職である元簿役に抜擢されますが、天保十一年(一八四〇年)、十一代藩主・中川久清が急死し、伊勢の津藩から、十二代・中川久昭(ひさあき)が急養子として藩主に就きます。この久昭は津藩の親徳川色を持ち込み、名君・中川久清侯の遺風で、勤皇の志が厚い榊井藩次郎、小河一敏等の岡藩藩代の家臣七人を解任します。(七人衆の変と云う。)

小河一敏は、久昭の側近等により肅清されるや、真木和泉や榊井小権等との交際を深め、更に公卿・中山忠能に仕え明治天皇の幼少時に養育係をした田中河内介を中心に、平野國臣、清川八郎と云った尊王攘夷派の志士達と密かに連携します。この頃から廣瀬武夫の父・廣瀬重武は小河の手足となり行動

狭間 文重(竹田出身)

を共にしています。

文久二年(一八六二年)三月、小河を盟主とした岡藩の志士二十余名は尊攘派の義挙に呼応して海路出立します。途次下関で西郷隆盛と会い信義を得て上阪、京都での義挙に備えます。

これには廣瀬重武や玉来の豪商・矢野勘三郎、後に竹田中學校で教鞭を執った赤座彌太郎や田近陽一郎も付き従っています。

この義挙は薩摩藩の島津久光の上洛に併せ、久光を反幕の盟主に担ぎ、関白・九条尚忠と所司代・酒井忠義を襲い排除すると云う過激な回天の義挙でしたが、この時、久光には討幕の意思は無く、公武合体を目指していました。

文久二年四月の「寺田屋騒動」は、これを察知した久光がこの義挙を止めるために、寺田屋に待機中の有馬新七等に、鎮撫使を差し向けた事から凄惨な同志打ちとなった事件です。

これにより義挙の全てが瓦解しますが、小河の教養と人物の厚みによる岡藩が、岩倉具視・大原重徳の諸卿の知遇を得て、岡藩士二行に勤皇の志が厚いとして、孝明天皇よりの「数感状」を得て帰藩します。同年八月、無事帰藩した一敏等を、藩主・久昭は数感状を偽書として幽閉や謹慎の処分にしします。

これを聞いた朝廷は、木戸孝允を始め薩摩・長州・土佐藩の諸士等の西策もあって、幕命により上阪した藩主・久昭に上洛を命じ叱責します。一敏等は幽閉を解かれますが、藩主・久昭とその側近は、微り幕府と朝廷の間で逆送を繰り返す。岡藩の志士達は再び幽閉されるなど、行動の制約を受けます。

この為、京都や江戸に於ける勤皇の舞台に立てずに幕末を迎えますが、慶応四年(明治元年)六月、小河一敏はこれ迄の勤皇の活動の功績により、天領・堺と河内、和泉を界域とする初代の堺縣知事に就任します。

ところが、明治二年、河内を流れる大和川と支流・石川が大氾濫を起し多くの農民が田畑を失い税収が途絶えます。縣知事・小河は直ちに河川の浚疏と堤防改修の着工許可を要請しますが、政府は度重なる要請を放置します。小河一敏は「吾いやくも牧民の職(地方長官の職)に居る」として、政府の意向に反し着工を決断します。

この工事は水害防止に併せて被災民を救済するもので、小河は私財を拠出し、勤員した被災民に労賃として日に米一升を給付します。また、独自に縣札の発行をも断行、多くの地元民に感謝され慕われましたが、まだ体制の整わぬ維新政府は、明治三年八月、小河の決断を専断行為として、堺縣知事の職を突如解任します。

知事解任の本当の原因は、明治二年秋、明治天皇が大久保利通をはじめ維新の元勳を集めた宴で、天皇の養育係であった田中河内介

の消息を問われ、これに小河が進み出て、薩摩藩が寺田屋騒動の後、引き取り手の無い浪士達を引き取るに称しながら船中で斬殺し投棄した旨を告げた事にあります。

この騒動で西郷隆盛は久光の逆鱗に触れて外され、久光の命でこれを取り仕切ったのは、これ等の時局を巧みに変節を遂げて権力者となった大久保でした。

その本性を知る小河は、大久保を最も賞徳させた人物でしたが、これが災いし、以後、大久保の執拗な忌避が続きます。

小河は体制の整わぬ維新政府に数多くの建白書を上げていますが、明治十一年の大久保利通の暗殺まで余り世に顯われません。

その後、小河一敏は宮内省に在って歴代の皇統譜の編纂等をしてながら、明治十一年に高輪を以て職を退き、明治十九年(一八八六年)一月三十一日病を得て七十四歳で没します。

竹田市殿町の「小河一敏記念碑」は能書家として評価の高い副島種臣の書になるもので、この碑と、東京・染井靈園小河家墓所に建つ「小河一敏記念碑」は共に副島種臣の撰文によるもので、両碑は対になるもので、併せて読み伝えたい碑文です。

小河に対しては、多くの識者がその胆力と見識を高く評価しています。小河一敏は来年、生涯二百年を迎えます。郷土の偉人として語り継ぎたい人物です。

文・狭間文重(竹田市上町生れ) 【昭和35年卒・西嶋正憲氏の実弟】

ふるさと紀行

(竹田地名考)全国各地に見られる竹田の地名

田部 修士 (昭42年卒)

- 以前にこの欄で、JR福知山線の兵庫朝来市、丹波竹田駅の西側にそびえる天空の城「竹田城」を取り上げましたが、それに続けて暇に任せ、各地に見られる竹田の地名を調べて見ました。北から順番に書き出しましたが、まだまだ沢山あると思いますので皆様も調べてみて下さい。
- ところで、地元竹田市からの報告によれば、その朝来市と竹田市が文化交流を始めたそうです。
- 1、青森県黒石市竹田町
黒石商業高校の東側に竹田町の地名が見られます。
 - 2、山形県酒田市竹田
坂田市役所支所の南西方向、最上川に面して竹田の地名。
 - 3、福島県二本松市竹田
二本松駅から東北の方向を走ると竹田
 - 4、福島県東白川郡棚倉町大字八槻字竹田
 - 5、新潟県佐渡市竹田
佐渡島の西海岸・真野湾に流れ込む真野大川の上流に竹田川ダム、中流に竹田の地名、東西のルート65号線を南北に渡る竹田橋が見られます。
 - 6、愛知県丹羽郡大口町
小牧ICから3kmほど北に向かうと大口町に着く、大口町役場の北側に竹田の地名が見えます。
 - 7、愛知県弥富市竹田
市内の東端、南北のルート70と東西のルート66が交わるところが竹田で、竹田、西竹田、竹田公民館がある。
 - 8、愛知県日新町岩崎町竹田
地図で東名高速・日進JCT付近の西側を覗くと竹田がある。
 - 9、名古屋瑞穂区竹田町
名古屋高速3号線・高辻入り口の東側付近に竹田がある。
 - 10、京都市伏見区竹田
伏見駅の南西方向に竹田街道がある。その街道に沿って竹田を冠する町名が27ヶ所見える。(例…竹田向代町、竹田七瀬川町、…)竹田桶ノ井町には竹田駅があるが、京都市営地下鉄と近鉄線の共同使用駅で要所になっており、近くには竹田郵便局、竹田小学校が見える。尚、竹田街道(現在のルート115号線)は、京都と伏見を結ぶ街道の一つで、京の七口の一つ・竹田口から伏見区竹田を経て伏見港へと繋がり、観光の伏見街道と異なり、主に牛車による産業道路であった。ここには、坂本竜馬に縁の船宿「寺田屋」がありました。
 - 11、京都府・丹波竹田駅
(前回紹介、天空の虎臥城・竹田城)地名として竹田、豊岡に加えて稲葉川まであります。もちろん但馬の国は云うまでもありません。
 - 12、大分県竹田市
竹田市の資料に「竹田は古来三宅郷に属し、文禄3年中川氏移封の後竹田町の称あり」とあります。そもそも、志賀氏の時代は城下町は狭田にあり、当時の武家屋敷の名残は木々に埋もれそうになっていますが、中川氏の時代になって中川氏が湿地帯であった城の西側・竹田村を整備し、玉来から多くの商家を移して新たな城下町を作ったとあります。このたび岡城城下町400年を記念する式典(平成24年9月)が大々的に開催されました。
 - 13、鹿児島県南さつま市加世田
戦国の武将・島津忠良に由来の竹田神社があります。
 - 14、おまけに、台湾高雄州麟蹄郡竹田
日本統治時代の1919年(大正18年)に立てられた90年以上の歴史を有する古い木造の竹田駅が保存されている。現在類似の駅は3舎しか残っていません。
- この土地は3000年ほど前に大陸の関東省嘉應州から渡ってきた人が住み着いた土地だそうですが、村落の由来として「ここは周田が竹藪に囲まれ、肥沃な田圃もあるので1921年に竹田と改めた」と記録が残されています。
- ここには、軍医として派遣され地域の医療にも貢献された池上博士の寄贈による池上一郎文庫が、今でも人々の娯楽施設と憩いの場として残されているそうです。
- なお、ついですが、台南には、碧雲寺と云う名の寺も残っています。
- 最後に、もう一つついでですが、「竹田の子守唄」について…
- 京都・竹田地区に伝えられていた民謡が、いつかフォーク歌手の間で歌われ、それを1969年グループ、赤い鳥が一揆にミリオンセラーとした。
- 一時期、何故かこの曲が聴かれなくなった時期があると不思議に思っていた方もおられると思いますが、この曲は、京都、大阪の被差別部落に伝わる「守子歌」(子守の仕事をする子供の労働歌)であったことから一時期は放送禁止歌として1990年代まで封印された時代がありました。
- (資料は、一部竹田市文化財課の佐伯氏より頂戴した)

絵手紙

本田 博数 (昭40年卒)

2010年2月に毎日新聞「みんなの広場」に投稿掲載されたのがきっかけでした。月一回投稿と決めてはいるもののネタがなかつたり、半年も掲載がなかつたりすることがあります。以前友人から「年齢と名前が似ているけど…お前か」と、電話があり驚きました。

掲載回数は30回でしょうか。ネタが尽きてきた感はありませんが…。



図書紹介

田部 修士(昭42年卒)

「竹田純愛物語 愛の架け橋」

岡吉之助著(S41年卒と同級
本名・渡辺孝善さん、玉来在住、
090-4349-7160)

故郷竹田を舞台に「愛」と「感謝」をテーマにした自伝(?)フィクションを出版されました。長年の夢で「沢山の人の読んでほしい」と願っておられます。文章は極めて荒削りですが、著者の気持ちがストレートに伝わってきます。登場人物には名前がありませんが、かえって皆さんの共感を得る作品です。もう一つ、値段がありません。本人に問い合わせましたら「気持ちだけで1000円+アルファーでお願いできた」と言っていました。



編集委員推薦の一冊です。いくつになっても誠実で清らかな少女のような心を保たれている関東同窓会・村尾イミ子さん(久住出身、旧姓・本郷さん)の作品です。「なまこやうさぎ」や「はせ下る久住の山」を詠むと、年甲斐もなくむしろうに切なくなりません。女性の方には特別お勧めしたい一冊です。少女時代

を思い出して、皆さんの胸がキュンとなること請け合いです。

「ザビエルコード」

甲山 堅著(本籍竹田市・大阪府出身、59歳)
Eブックエント社出版、
定価1500円

「竹田市推薦図書。竹

田市には「サンチャゴの鐘」「聖ヤコブ(スペイン語でサンチャゴ)の頭部石像」など途方もない値

値を秘めた歴史遺産が眠っています。

それらの意味するところが、ザビエルコードによつて知られるならば、最後竹田は観光の一大拠点となる可能性を秘めています。」と紹介されました。ヤコブの石像は昭和36年にキヤッチボールをしていた子供が、ボール探しに入つた岡城西の丸下の敷の中から偶然に見つけたそうです。



訃報

懐んでお知らせ申し上げ、心から冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

小代 文喜 様(昭35年卒)
平成23年12月 没
佐藤 邦生 様(昭25年卒)
平成24年5月 没
神田 満 様(昭26年卒)
平成24年10月 没

喪事務局へ連絡を頂いた方々を掲載させていただきます。

2013年関東同窓会 総会・懇親会

6月15日(土)
AM11時30分受付開始 12:00~15:30
東京プリンスホテル

歌の甲子園
全日本高校
声楽コンクール

瀧廉太郎記念音楽祭(全日本高等学校声楽コンクール)は、瀧廉太郎を顕彰し、戦後間もない昭和22年に創設されました。今年には66回大会となるそうです。過去においても今年の夏のような大水害が発生してありますが、過去65年の長きに渡り一度も途切れることなく続いてきました。今年はその聖地・竹田市文化会館が使用の見通しが立っておりませんが、竹田市と音楽を愛する人々の熱意で、10月19、21日にくじゅうサンホールでの実施が実現しました。

昭和25年には、竹田会にも来てくれました。歌手の山本健二さんも出場されています。この音楽祭が一人でも多くの人々に愛され、今後とも永く竹田の地で開催されるように願っています。皆さんのご支援をお願いします。

※「投稿」をお待ちしています。

この会報は会員皆様方の情報交換の場として編集しています。関東同窓会全員の皆様からの投稿を期待していますがその数が少なく苦労しています。お互いの交流の場としてぜひお活用下さい。

委員一同

投稿内容

- ①クラス会情報
- ②故郷の便り
- ③海外便り
- ④会員の語らい
- ⑤詩歌・文芸
- ⑥会員の催し
- ⑦会員消息
- ⑧その他

連絡先

〒103-0027
東京都中央区日本橋1-15-1
日本パーカライジング
田部 修士 宛
(広報委員長)

TEL 03-3324-8143
03-3324-8143
FAX 03-3324-8143
03-3324-8143



詩集「うさぎの食事」

村尾イミ子著、土曜美術出版社
定価2100円